

1 はじめに

平成26年度の研究紀要では、平成24年度から取り組んできたキャリア教育の視点を生かした授業改善のまとめをし、訪問教育の児童生徒にとってのキャリア教育を考え、「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」の4能力領域の一つ「人間関係形成能力」を育てる授業研究を行ってきた。平成27年度も引き続き授業研究を行い、今年度は、小・中・高の全学年で必ず実施している「始めの会」を取り上げた。「始めの会」は2時間の授業の中で占める時間は短いですが、毎回実施し同じ手順で繰り返されるので、子供たちにも見通しが立ち安心して取り組める活動である。また、挨拶や意思表示など、人間関係形成能力に関わりの深いコミュニケーション能力に関する内容が多く含まれている。これらを考慮して、「始めの会」を取り上げることにした。

2 目的

- 人間関係形成能力を育成する授業を研究する。
- 授業研究を通して、訪問教育担当者間における訪問教育児童生徒の共通理解を図る。

3 方法

- (1) 人間関係形成能力について話し合い、共通理解を図る。
- (2) 人間関係形成能力に焦点を当てた授業を実践する。
- (3) 作成した「授業における観点位置付け・授業改善シート」や授業のビデオを視聴して、授業研究を行う。

4 実践内容

(1) 平成27年度の実践

ア 授業事例（実施順）

事例	部	教科名等	題材名	観点
1	高	生活単元学習	交流学习	自己理解・他者理解、意思表示
2	小	遊びの指導	秋の歌	人とのかかわり
3	中	日常生活の指導	始めの会	人とのかかわり、挨拶、意思表示

イ 授業研究

事例1では、本人からの発信をより促すような活動を検討した。事例2・3の授業研究では、健康状態が崩れ活動が限られたり反応が乏しくなったりした児童生徒は見通しが立ちにくく、キャリア発達を考えることが難しかった。

(2) 平成28年度の取組

今年度は、「実践キャリア教育の教科書」（菊地一文編著 学研）を参考に、授業のビデオを視聴後、各自が効果的だった点（授業の良いところ）とより良くするための改善策を付箋に書き出してから授業研究をした。意見を共有することにより、話し合いが進みやすくなった。

ア 授業研究
事例1 (高等部)

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けに対して、言葉を意識しながら発声する。 ・授業の内容を知る。 ・教師の言葉掛けを聞きながら正しい天気を選ぶ。 			
主たる観点	*人間関係形成能力 ・意思表示			
関連する観点	*意思決定能力 ・自己選択 *情報処理能力 ・様々な情報への関心			
学習内容	支援と指導上の留意点	気付き		
		次時の授業改善点	教育課程への反映	生活全体への反映
1 挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・号令 ・出席確認 ・健康観察 2 カレンダーワーク <ul style="list-style-type: none"> ・日付の確認 3 天気調べ <ul style="list-style-type: none"> ・天気を選ぶ ・カレンダーに天気シールを貼る 4 学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・号令を掛けるかどうか聞く。 ・言葉掛けにより、発声を促す。 ・数字を意識できるよう、数字カードを見ながら日付を言うようにする。 ・窓から天気を見るかどうか聞く。天気を見るときは、教師が天気の様子を説明する。 ・最初に言葉で答え、次に天気カードで確認する。 ・指先でシールを剥がせるよう支援する ・日程表ボードを視界に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日程表の修理、改良を行う。また、授業中、終わりの会の際に活用する。今が何の時間か、次は何をするのか分かるようにする。 ・天気カードは、イラストで天気を表現しているが、写真を使うのも良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回同じ内容、順番で行うことで、始めの会の流れについて見通しを持っていることが感じられる(カレンダーの日付カードを見ると自分から声を出すなど)。 ・選択場面などで、理解して返事しているかどうかをやり取りの中で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーワークや天気調べは、自宅でヘルパーと過ごすときにも行うと良い。 ・接し慣れた大人とは、言葉のやり取りを通して関係を作っている。同年代の生徒とも同様に関わることができると良い。

効果的だった点は、まず生徒とやり取りをしながら活動を進めていることが挙げられた。始めの会は毎回同じ活動なので見通しを持つことができ、そのことが自信となり大きな声が出ていた。この生徒は意図的に発声することができるが、言葉としては聞き取りにくいことが多い。そのときには、カードで確認した。生徒からの発信を正しく受け取ろうとする教師の姿勢は、生徒のコミュニケーション能力を培うことに役立っている。次に、座位保持椅子に座るときに抱き上げて揺らして活動に入ると生徒が笑顔で取り組むんだ。また、健康観察で母親が書いた連絡帳の内容を取り入れ、様々な情報に関心を持つようにしたり制作で使う粘土を提示して活動に興味を持つよう促したりすることが挙げられた。教師との信頼関係を築くことに役立っていた。

より良くするための改善点では、天気カードを提示して確定するタイミングが速いのではないかという意見が出た。担当者によると、天気が生徒が思っているものと違うと黙っ

ている。カードと天気が合致することが重要だから、強化することを考えて、正しい天気をカードで提示することに重点を置いているということだった。また、担当者から本人が発声するタイミングを「はい。」と手を出して示しているが、関係なく発声したり、言葉の音の数が合っていないかったりするのので、教師の合図で話し始めることを定着させたいと話が出た。これについて、この生徒は数字カードを見て読むことを喜ぶので、言葉カードを読むことも意欲的に取り組むと考えられるため、提案した。例えば、言葉カードを提示して、1文字ずつ指示しながら声を出すと、文字と音がつながっていることを知り、文字がないところでは黙るということを知ることになるのではないかと。大きな声が出ている号令や挨拶などで活用していけば良いのではないかとという提案があった。言葉として、聞き取りやすい発声が増えれば、より多くの人とコミュニケーションが取りやすくなると考えられる。

訪問教育では、年1回知的障がい部門の児童生徒と授業交流を行っている。この生徒は、保護者が同年代の子供と接する機会をより多く持ちたいという希望があり、高等部入学後は同学年の生徒と一緒に学校で活動することに加えて、タブレット端末で通信する活動もしている。2年目になり、タブレット端末での交流に慣れて、昨年度一緒に活動した生徒が多くいるクラスの生徒の問い掛けに声を出して応じ、画面に映った生徒に向かって声を出すなど喜んで活動している。また、相手の生徒も積極的に関わっているのでコミュニケーションがしやすくなっていると思われる。

事例2 (小学部)

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> できた喜びを感じながら楽しい雰囲気の中で学習の始まりに期待感を持つ。 教師の言葉掛けに発声や体の動き、カード選択等で意思表示をする。 			
主たる観点	*人間関係形成能力 ・ 意思表示			
関連する観点	*意思決定能力 ・ 自己選択			
学習内容	支援と指導上の留意点	気付き		
		次時の授業改善点	教育課程への反映	生活全体への反映
1 歌 ・呼名、返事 2 健康観察 3 握手 4 天気 ・天気を選ぶ ・ボードに貼る	<ul style="list-style-type: none"> タッチして返事するのを待つ。 児童の反応を待つ。 窓の外を見るように促す。 「ぴかぴか晴れ」「雨ざーざー」「もくもく曇」の言葉でカードを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本児が反応するを待つ。 本児の気持ちを読み取った言葉掛けを心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 本児の意思や表出を大切にし、意思表示の機会を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声や選択場面を多く経験する。 多くの人と関わり意思表示をする
5 カレンダー ・日付確認 ・数唱・ペンを 選ぶ ・色塗り	<ul style="list-style-type: none"> 選択を2回行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 毎回同じ流れで行われているため、見通しを持って活動してい 	<ul style="list-style-type: none"> 経験を積み重ねる。

・色カードを貼る			る。(健康観察と言うと元気ポーズするなど)	
6 ピアノ ・マッサージ ・自由演奏 ・曲の選択 ・演奏 ・曲カードを貼る	・選択を2回行う。 ・選んだ色のカードはどちらか聞く。 ・指を伸ばして演奏するように声掛けをする。	・間、テンポはどうか。		

効果的だった点は、①活動内容をカードにして順番にボードに貼り、終了したらカードを裏返しているので、授業の流れが分かる。②選択場面で必ず確認して進めている。③児童の発声に返事したり、本人の気持ちを受け止めようとしたりする言葉掛けをしていた。④過度に支援しすぎないように、本人の反応を待つことに努めていることが挙げられた。

より良くするための改善策（次時への改善点）では、次の活動までの時間が長く、何をすべきなのか間が空いているという指摘が出た。教師が問い掛けをしてから反応まで何秒待つと決めておき、それを越えたら問い掛け直したり反応を引き出す言葉掛けをしたりすることが良いのではないかという話になった。また、「今日の天気は晴れか雨か。」を聞いて、児童がカードを取って選択したら、今度は本人が選んだカード（例えば晴れ）を強化するように促す。「晴れのカードはどっち？」と尋ねて、「晴れ」の言葉とカードを結び付ける活動にすることも提案があった。

この児童は家庭で過ごすことが多かったが、夏休みから日中デイケアのサービスを利用するようになり、人と関わる機会が増えた。10月に居住地の小学校5年生と交流した。初めての人に会っても、不安そうな様子もなく、笑顔を見せていた。相手の児童たちもその様子を見て、進んで関わってきた。

事例3（中学部）

本時の目標	・人と関わりながら、意思表示を促しコミュニケーションを図る。 ・見通しを持って、授業に取り組む意欲を育てる。			
主たる観点	*人間関係形成能力 ・人とのかかわり ・挨拶・意思表示			
関連する観点	*将来設計能力 ・習慣形成			
学習内容	支援と指導上の留意点	気付き		
		次時の授業改善点	教育課程への反映	生活全体への反映
1 挨拶をする。	・号令を掛けるか問い掛け、何か反応があれば待ち、なければ教師が号令を掛ける。 ・何か反応があれば、それを言葉で伝える。	・教師の問い掛けへの反応を十分に待つ。	・活動の始まりと終わりを分かるように伝える。	・家族や病棟の職員等、人と関わる機会を多く持ち、挨拶や意思表示をする経験を積み重ね

				る。
2 出席調べをする。	<ul style="list-style-type: none"> 体の動きの返事を認めつつ、発声を促し、3回の呼名で切り上げる。 		<ul style="list-style-type: none"> 意思表示する機会を多く設定する。 事前に予定を知らせるなど、見通しを持って活動できるようにする。 	
3 健康観察をする。	<ul style="list-style-type: none"> 額に手を当てるなどしながら、今の体の様子を伝える。 			
4 カレンダーワークをする。	<ul style="list-style-type: none"> カレンダーに「今日」に印を付けシールを貼る場所を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人が見える提示位置を工夫する。 		
5 天気調べをする。	<ul style="list-style-type: none"> 窓の外や室内の様子を伝え、今日の天気をカードで示す。 	<ul style="list-style-type: none"> より明確に意思表示ができる方法を考える。 		
6 今日の予定を知る。 ・日付ボードや日誌を見る。 ・予定を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に見せながら予定を書く。 			

効果的だった点は、①チャイムの音で授業開始を知らせ、また始めの会ですることを書いたカードを提示して言葉掛けしながら始まりを伝え、終わったらカードをめくりながら終わりを伝えている②午後の授業であることを「こんにちは」という挨拶と「お昼から」という時間帯をつなげて伝えて分かりやすかった。③出席調べで呼名の回数を知らせていた。④生徒の声や動きに対して教師が反応して、言葉掛けをしたりその動きを言葉で伝えたりしていた。⑤生徒の反応も十分待っていたことが挙げられた。

より良くするための改善策では、天気調べの方法が難しいという指摘があった。担当者は天気カードにフェルトを貼って、生徒の手や頬に当てているが、分かりにくいと思った。タブレット端末で当日の天気の写真を撮って提示したら、分かりやすいのではないかとまた、一緒に季節的な情報を伝えてもいいのではないかとという提案があった。生徒のベッドは病室の窓から遠く天気が確認できないので、写真を提示することは生徒にとって分かりやすいと思われた。

この生徒は現在体調を崩していて、1年以上ベッド学習が続いている。事例1や2の児童生徒のように、意図的に声を出したり体を動かしたりすることは少なく、人からの働き掛けへの反応が微弱であったり時間が掛かったりしていたが、笑顔になったり右腕を動かしたりすることがあった。ベッド学習になってからは、活動が制限され、反応も乏しくなった。施設に入所し人と関わる機会が多いが、関係は広がりにくいようだ

5 成果と課題

訪問教育の児童生徒のキャリアとは、教師の働き掛けに対して子供が相手に返すという役割を果たすことであると捉えて、部別研究に取り組んだ。話を重ねて、意図的に反応する子供はもちろんのこと、教師の働き掛けに意図的に反応することが難しい子供の場合は、働き掛けをしてから、子供を観察しながら反応を待って、何らかの反応があれば、それを言葉でフィードバックし評価することを繰り返すことだろうか。その繰り返しによって、意図的に反応することを育てていくことになるのだろう。

小学部担当教師が、もう一人の児童に授業研究で話し合った効果的だったことを実践した。この児童は反応が微弱で笑顔になることも少ないが、教師の問い掛けに対して反応したことを言葉でフィードバックして大げさに褒めることにより、教師の児童に対する言葉掛けが増え、児童が笑顔になることが増えたような気がすると話した。これは、児童と教師の関係が深まった相互作用によるものと考えられる。

キャリア教育の「能力」はできるできないではなく、育成する、一緒にやることでやってみたいという気持ちを育てていく、ということを含めた言葉である。授業では、教師と一緒に様々な活動をしながら、この人と一緒にいると楽しい、褒められてうれしい、という人間関係が作られていくのではないだろうか。

また、児童生徒が「できる自分」に気付くことも大切である。発達段階に応じた質の高い承認・賞賛の方法を工夫することも考えなければならない。年齢や発達段階を考慮することも必要だが、児童生徒の好みに応じた分かりやすい評価をすることが大切であると話し合った。

「障害の重い子どもの授業づくりPart 6」(飯野順子編著ジアース教育新社)で、「毎日の繰り返しの授業の中には、コミュニケーション力を高める機会が多く含まれていますので、意図的に取り組むようにします。」「毎日の授業の中で、意図的に働き掛けることの積み重ねは、子どもに必要な力を蓄積することになります。」とあった。このことを心掛けて授業に取り組みたい。

課題としては、集団活動をする機会が限られていることである。平成27年度に肢体不自由部門が開設され、訪問教育に在籍していた児童生徒も2名異動した。今まで訪問教育しか選択肢がなかった児童生徒が通学できる状態になったことは喜ばしいが、訪問教育の在籍数は減少した。今年度は、小学部2名、中学部1名、高等部1名の計4名である。家庭状況や健康状態によって、行事に参加できないことが多く、参加者1名という状況が続いている。集団学習を施設の協力を得て限定して実施するなどの工夫はしているが、改善は難しい。集団活動は、児童生徒の成長にとっても必要であるが、教師にとっても担当以外の児童生徒の様子を知り、共通理解を図る機会として大切であるので、何らかの手立てを考えたい。

【参考文献】

- 「障がいの重い子どもの授業づくりPart 5」 飯野順子 授業づくり研究会 I & M
(ジアース教育新社) 平成25年
- 「障がいの重い子どもの授業づくりPart 6」 飯野順子 授業づくり研究会 I & M
(ジアース教育新社) 平成27年
- 「実践キャリア教育の教科書」 菊地一文 (学研) 平成24年